



小さな拠点づくり Creating a small base

私たちの町をご紹介



清流・高津川とコウヤマキの 自生林が広がる自然の宝

吉賀町の中心地であり最も人口が多い六日市地区は、「東京スカイツリー」の監修者である彫刻家の澄川喜一氏や、ファッションデザイナーの森英恵氏など、著名人の出身地でもあります。

地区内には南北に一級河川・高津川が流れ、スカイツリーのモデルとなった吉賀町の木「コウヤマキ」の自生林が広がっています。このうち25haは島根県自然環境保全特別地区に指定され、町の天然記念物にもなっています。

「コウヤマキギャラリー」は、豊かな自然資源を観察し、保護・育成をするための活動拠点として利用されている施設で、その他にも、森英恵氏の生家には色とりどりの花が咲く「フラワーガーデン」や「むいかいち温泉」、産直物産館も併設されている道の駅など、観光施設も多い地区です。



小さな拠点づくりとは?

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、様々な課題の解決が必要です。 そのために知恵を出し合い、計画をつくって出来ることから 少しずつ取り組んでいくことが「小さな拠点づくり」です。 小さな拠点づくり

Creating a small base

私たちの アイデア

11

吉賀町

六日市地区

(六日市公民館)









活動内容

顔見知りに「ラジオ体操」で地域の人たちと行る



きっかけ

まちのひとの声

ラジオ体操に参加し、何日も近所の人と顔を合わせることで挨拶もしやすくなりました。交流に繋がる良いきっかけになっています。



地域の中で、少しでも話のできる知り合いを作ってもらいたいとの思いから活動を進めています。近年、防災組織は作られてきましたが、十分に機能はしていないのが現状です。もしもの時のために、少しでも横のつながりを作り、顔見知りの中で助け合い、支え合える関係づくりを目指しています。

2009年から六日市小学校と地域の 人が夏休みの「ラジオ体操」を一緒 に行っています。当初は高齢者の方 の健康づくりが目的でしたが、2022 年より地域の誰もが参加できる仕組 みに変え、異世代はもちろん、最近希 薄になりつつある同世代の繋がりづ くりを推進しています。一人でも知り 合いを増やし、将来困ったことがあっ た時に頼れる存在づくりのきっかけ になることが期待されています。 六日市地区には以前より病院やスーパー等が揃っており、1983年に六日市インターチェンジが開通してからはさらに利便性の高い地域となりました。その反面、人との繋がりが希薄になり始め、災害時における高齢者の把握や安全確保が心配されています。そのため、六日市公民館では住民同士の交流の場を設け、顔見知りになってもらう活動に取り組んでいます。



小さな拠点づくりとは?

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、様々な課題の解決が必要です。 そのために知恵を出し合い、計画をつくって出来ることから 少しずつ取り組んでいくことが「小さな拠点づくり」です。 づくいない

idea

小さな拠点づくり

Creating a small base

私たちの アイデア

11

吉賀町

六日市地区



室を行う「出張公民館



地域の中で、少しでも話のできる知 り合いを作ってもらいたいとの思い から活動を進めています。近年、防災 組織は作られてきましたが、十分に 機能はしていないのが現状です。もし もの時のために、少しでも横のつな がりを作り、顔見知りの中で助け合 い、支え合える関係づくりを目指して います。

公民館ではものづくり教室や体験活 動を定期的に開催していますが、遠 方で来られない高齢者も多い上、各 集会所(自治会)でのイベント企画も 大変になってきたとの声も聞かれて いました。そこで、社会福祉協議会が 集会所単位で開催しているサロン に、公民館のスタッフが出向きイベン トを行うことで、気軽に住民同士やス タッフとの交流をしてもらう機会を設

六日市地区には以前より病院やスー パー等が揃っており、1983年に六 日市インターチェンジが開通してか らはさらに利便性の高い地域となり ました。その反面、人との繋がりが希 薄になり始め、災害時における高齢 者の把握や安全確保が心配されて います。そのため、六日市公民館では 住民同士の交流の場を設け、顔見知 りになってもらう活動に取り組んで います。



小さな拠点づくりとは?

けています。

住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、様々な課題の解決が必要です。 そのために知恵を出し合い、計画をつくって出来ることから 少しずつ取り組んでいくことが「小さな拠点づくり」です。